



帯広東ロータリー・クラブ会報

[2011-2012年度]

会長/吉村 学 幹事/西田 重人 会報編集 メディア委員長/高田 進

■創立：1984年6月15日 ■認 証：1984年6月18日 ■例会日：毎週火曜日 12:30~13:30

■事務局：〒080-0013 北海道帯広市西3条南9丁目 帯広経済センタービル4F TEL(0155)25-7347 ■例会場所：帯広ワシントンホテル TEL(0155)23-5111

第1311回例会 (2011年11月15日※ 於 帯広ワシントンホテル)

点 鐘 会 長 吉村 君
開会宣言 S A A 森 君

ロータリーソング

それこそロータリー

ゲスト紹介

ファイナンシャルプランナー 村瀬 明美 様

会長挨拶

吉村会長



皆さんこんにちは。

昨日辺りから、やっと例年並みの冷え込みとなってきましたが、会員の皆様には、風邪などひかぬように、十分に気をつけて頂きたいと思います。

先週、11月8日の例会を出張のため今期初めて欠席させて頂き、役員及び会員の皆様に多大なご迷惑をおかけしましたことに対し、心よりお詫びを申し上げます。今期最初の例会時に、皆様には、例会の欠席が多くなるかもしれない旨をお伝えし、ご理解とご協力をお願いしたところですが、各方面の方々にもご協力とご支援をお願いした結果、現在まで様々な形で調整を頂いているところです。今後とも何卒宜しくお願ひ申し上げます。

さて、本年も残すところ1ヵ月半余りとなりましたが、当クラブの大きな行事予定として、12月13日の年末家族会と来年2月26日のIMがあります。年末家族会は、親睦委員会が、また、IMは板倉実行委員長が中心となって準備を進めて頂いておりますが、会員の皆様にもそれぞれの役割が決まりました折には、各担当部署において何卒ご協力の程、お願ひ申し上げます。

現在、当クラブの会員数は、38名です。この人数でIM等の事業を成功させるためには、当クラブ会員全員が力を結集して運営に当たらなければならないと思っていますので、更なるご支援をお願い致します。

また、ロータリー情報委員会では、今後開催予定の情報集會テーマとして、「会員増強について」を表題として頂いておりますので、各班の皆様には、この古くて新しいテーマについて、何らかのヒントを出して頂き、厳しい状況を何とか乗り越えて行きたいと考えておりますので、何卒宜しくお願ひ申し上げます。

本日は、ファイナンシャルプランナー (FP) の村瀬様の卓話を頂く事になっており、非常に楽しみにしているところ

ですが、日頃より、FPの方々には、社会保障制度、金融関係、各種保険関係に社会情勢を的確に把握して、アドバイスをしていることから、日々情報収集と勉強を重ねておられることに敬意を表しているところでもあります。

本日は宜しくお願ひ致します。

以上会長挨拶といたします。

ありがとうございました。

会務報告

西田幹事



・帯広東RC例会、11月22日(火)は休会とします。

・帯広東RC、年次総会のご案内

日時 平成23年12月6日(火)

午後0時30分〔例会時〕

・帯広東RC、年末家族会開催のご案内

日時 平成23年12月13日(火) 午後6時30分

場所 インザスイート レストラン〔ザ・スープ〕

会費 一家族 2,000円

・次週は新入会員の入会式を予定しております。

ニコニコ献金

深澤親睦委員長



●吉村会長 本日はサッカーワールドカップ予選がピョンヤンで開催されます。日本チームとサポーターが無事に帰ってくることを願って“勝利と一緒に”

●加藤昭治会員 11月より国家試験の会場に経済産業大臣の許可を取りました。コンピュータ、各保険の試験です。

●神田会員 誕生日に記念品を頂きありがとうございました。

●曾根会員 モンゴルでメークアップしてきましたので報告します。旭川の地区大会でお会いした元米山奨学生の案内です。在籍23名中18名が女性経営者との事でした。モンゴルでも女性が活躍しているようです。

●高田会員 本日、メディア委員会の担当例会です。宜しくお願いします。

出席報告

高橋出席委員長



■第1309回 会員数38名 当日出席21名
メークアップ4名 合計25名

出席率79.0%

■第1311回 会員数38名 当日出席27名

ファイナンシャルプランナー 村瀬 明美 様

〔値下がり恐怖の払拭「つみたて投資とは？」〕

こんにちは。ただ今ご紹介頂きました、ファイナンシャルプランナーの村瀬明美です。

今回東ロータリークラブ様よりこのような機会を頂きありがとうございます。短時間ではありますが、皆様の生活に一つでもヒントになればとこれからお話しさせていただきます。



金融関係から皆さまへ商品の提案を受けた事はあると思います。今日例題でお話しする1万や10万円という単位で勧誘を受けられた事はないかと思いますが、前半は親の立場として子や孫に「投資」を始めるときのアドバイスをするとき「こんな話」を例えにして下されば、後半は経営者として後世に引き継がれるお金の使い方のヒントになればという内容を話させていただきます。

では、レジメの1枚目、「つみたて投資の本質」時間を味方に付けた「回復力」について簡単な問題を載せてあります。

(図を見て頂く、縦軸価格・横軸年数 V字型のグラフを示す)

「図のような値動きをする商品に『つみたて投資』をした。スタート時の価格は1万円。5年後、2,000円にまで下落。この時期-60.1%。10年後に1万円に戻りました。いつの時点で黒字になりましたか？」(星野泰平氏著書/半値になっても儲かる「つみたて投資」講談社α新書 引用)

次の3つから選んで下さい。①6年6ヶ月 ②7年10ヶ月 ③8年9ヶ月

スタート時は1万円で1口購入することになります。仮に価格が8,000円ならば、1.25口購入出来ることになります。まして、価格が2,000円ならば、1万円で5口買えることになります。価格が下がると口数が増えることが分かります。答えは①6年6ヶ月で黒字になります。

次に、グラフは同じです。質問は「スタート時の価格は1万円。5年後、2,000円にまで下落。10年後に1万円まで回復。スタート時と同じに戻りました。毎月1万円のつみたて投資の場合、総投資資金は120万円。10年後の総資金はいくらになったでしょう？」

次の3つから選んで下さい。①約150万円 ②約196万円 ③約241万円

ヒントは、例えば8年目価格が8,000円になっていたら、総投資が額は96万円、何口あると投資額と評価額が一致するかというと、120口あれば金額はイコールになります。8年目に120口あるとしたなら、10年後は価格が1万円に戻ったのですから120万以上になるのは歴然。答えは③約241万円となります。

最初の問題は、つみたて投資の時間を味方に付けた回復力を意味します。二番目の問題は、価格のリバウンド、一括なら120万円の投資が10年後そのまま戻ただけですが、毎月つみたてことで、下落時に口数が増え総資金は、倍になったということです。これがつみたて投資の醍醐味(特徴)です。

実際、日本経済も1989年12月をピークに現在の日経平均株価は、約四分の一。この20年間一直線に下降したわけではなく上がり下がりを繰り返しています。図のようなV字の形を示した回数は、9回存在していました。ということは、つみたて投資の効果の恩恵を受けられた事になります。

この著者は、実はまだ30歳という若さではありますが過去のデーターを指数に落としグラフ化で検証しています。また著者自身も証券会社に在職経験もあり、つみたて投資の有効性に気づき提案をしていましたが、このようなつみたて投資は販売会社には儲けにはならず、会社の方針ではお奨めしなかったことも現実です。

実は、このつみたて投資の考え方は最近見直されたのではなく明治時代、色んな偉人達は実践してきた投資スタイルです。

造園業に従事されている方はご存じかと思います。「公園の父」と言われ東京日比谷公園や北海道大沼公園の設計者である本多静六氏を投資方法としてご紹介します。

本多氏は、東京大学教授を務め9人の家族を養いました。教授とは言え、決して高い給料ではなかったが、先ず初めに収入の四分の一を貯金に充てたとされています。四分の一を生活費・四分の一を交際費・四分の一を慈善事業へと。題して「四分の一貯蓄法」本多氏いわく「財産をつくるための基本は、勤儉貯蓄であり貯金ができたら有利な事業に投資しなければならない」と遺しています。子孫には金は残さず、与えたものは「教育」だけで保有していた森林も昭和5年に埼玉県へ寄贈。森林の収益は奨学金として活用「本多静六博士奨学金」。また時代同じく、「日本の資本主義の父」と称された渋澤栄一氏や関東大震災の東京都市復興計画の立案をした後藤新平氏などとの交流も深かったようです。彼らは、投資の考え方・お金の使い方という面では共通点があります。儉約質素な生活。渋澤氏も子孫に財産など遺さず、また500社ほど手がけた「会社(企業)」に渋澤の名すら残さなかったと。後藤新平氏は倒れた日に次のような言葉を遺している「金を残して死んで行くのは下だ。仕事を残していくのは中だ。人を残して死ぬことは上だ。よく覚えておけ」

今日の例会にご参加されている皆さんは、いずれ事業継承をされ後継者に会社を渡されることでしょうか。社会から得た富は、抱え込んでダメなのです。社会に投資して下さらないと次に繋がらないのです。皆さんが「かっこよくお金」を使って「かっこいい」お手本になって下さればと願っています。

埼玉県の菖蒲小学校、4年生の授業では、この本多静六氏の「四分の一貯蓄法」を取り上げるそうです。子供の頃はよく「読み書き算盤」と低学年から文字や数字の勉強をしています。現在金融商品が氾濫している中で、私達は金融商品についてほとんど教えられていませんでした。「読み書き算盤」のように金融に関する読み書き算盤(金融リテラシーと言う)は必要な知識です。

金融リテラシーの第一歩は「つみたての効果」です。そして増えたお金をかっこよく正しく使うのは、今日の皆さんだと思います。どうぞ後進達が「かっこいい人(経営者)」と目標にされるような使い方をして頂ければ幸いです。

お時間が参りましたので、これで終わらせて頂きます。ご静聴ありがとうございました。

次回プログラム予定

11月22日(火)〔休 会〕

11月29日(火)〔情報集会報告〕(会員増強・ロータリー情報委員会)